

序文 Preface

第7回天文学史研究会を2019年3月11日(月)と12日(火)に国立天文台講義室で行った。相馬 充(国立天文台)の科学研究費補助金(基盤研究(C):課題番号15K05038)から旅費の補助を行った。「天文学史研究会」と題するこの研究会は、2006年1月に第1回、2008年12月に第2回、2009年12月に第3回、2011年1月に第4回、2016年3月に第5回、2017年3月の第6回を開催した。今回はこれらに続く第7回である。歴史的記録を使って現代科学における重要な結果を導くという点に重きを置く「歴史的記録と現代科学」研究会も天文学史研究会とは独立に行っており、それは2006年6月に第1回、2009年3月に第2回、2012年3月に第3回、2014年2月から3月にかけて第4回、2018年3月に第5回を開催した。近年、天文学史に関する研究が活発で、今回も2日間にわたり、朝から夕まで活発な議論が行われた。

今回は中国から Xin Jiadai 氏、韓国から Yong Bok Lee 氏、イランから Mohammad Bagheri 氏、インドから Krishnamurthi Ramasubramanian 氏を招いて、各国の古代の天文記録や暦等に関する研究結果について講演していただいた。そのため2日目を英語セッションにした。英語での質疑も盛んであった。

初日の座長は大橋由紀夫、岡崎彰、野上長俊の各氏に、2日目の座長は諫早庸一、谷川清隆、Yong Bok Lee の各氏にお願いした。講演内容も多岐にわたり、質疑も活発に行われ、今回もたいへん有意義な研究会になった。このような研究会の開催にご協力くださった講演者や参加者の皆さんに感謝する。

本研究会開催に当たっては、海外旅費の手続きをすばる室の末広曜子氏に、国内旅費の手続きをすばる室の木村弘子氏に、それぞれお世話いただいた。研究会の準備や受付等はこのお二人に加え、すばる室の桑田ひとみ氏と柴田純子氏にご協力いただいた。集録印刷の手配は科学研究部の泉塩子氏の手を煩わせた。また、海外研究者のビザ申請と該非判定について国際学術係の塚野智美氏と国際連携室の蓮尾隆一氏にお世話になった。お世話くださった方々に感謝する。

研究会世話および集録編集：相馬 充，谷川清隆(国立天文台)

お詫び：2018年3月に行った第5回「歴史的記録と現代科学」研究会の集録に、同研究会でご講演いただいた岩橋清美氏の集録原稿を編集者のミスにより掲載していませんでした。岩橋氏はじめ、集録の読者の皆さまに多大なご迷惑をお掛けしました。心よりお詫びいたします。その原稿は本集録に掲載いたしました。